

筑波大学附属高等学校 1年生で課題探究の基礎を指導する8つの指導計画（東京都）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約720名
(うちSGH対象生徒数 全員対象とする)
- SGH対象学科：
全生徒を中心とする
- HP：http://www.high-s.tsukuba.ac.jp/shs/wp/
(SGHの取組はこちら：
http://www.high-s.tsukuba.ac.jp/shs/wp/sgh/)
- SGH委託費用総額：約4,670万円
(H26：約1,584万円、H27：約680万円-850万円/年で推移)
- 校内の体制：校内推進委員会（毎週協議）、
SGHプログラムを担う4名の国際部、
1年時SGHスタディを実践する8名の教員を中心とする会議など
複層的な体制を構築
- 国内連携機関：筑波大学
- 連絡先
✉wkumada@high-s.tsukuba.ac.jp
☎03-3941-7176（代表）

何を目指したか

- 課題探究の基礎を体系的に学び、
全生徒がグローバル・シチズンになる

ツールのポイント

- 1 全生徒（1学年240名程度）に共通で均質なプログラムを
提供するための明文化された指導計画
- 2 目的、実践内容と共に参考文献も記載することで、アイデアを共有

SGH事業実施に
必要だった資源

人員

- 事務職員2名の他に、以前より本校で国際交流事業に取り組んでいた教員をアドバイザーとして週1回派遣（いずれもSGH費用を活用）



金銭

- 海外研修を含むSGHプログラムと人件費が費用の大部分



時間

- 特に立ち上げ時は各授業開発やプログラム開発の相談の時間が多い
また、土曜日、放課後などに校外に課外活動に行く場合の引率は負担が大きい



心理

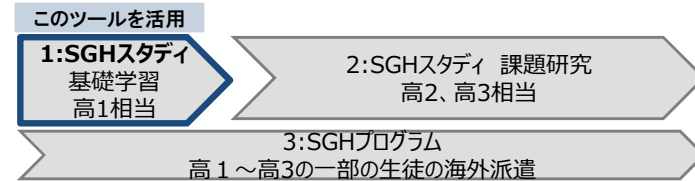
- 全生徒対象と共に全教員の関与を実践したが、学習意欲の上がりにくい生徒と向き合いながら、教員自身がモチベーションを向上することは難しさがある

Plan

ツール作成の背景

- 2,3年生でチームでグローバルな課題を探究できる基礎を、全生徒に共通して身に着けることの必要性を感じた
- 8名の教員が互いの目的意識や実践内容、参考文献などを開示しあい指導方法を共有することで、8講座が相互に連携しあうトータルな授業づくりを目指す

SGH事業計画の流れ



Do

ツールの解説

✓ SGHスタディ8つの指導計画

取組概要

- 1年生全員が学ぶSGHスタディにおいて、共通で均質な、課題探究の基礎を習得すべく指導計画を1講座1枚のペーパーにまとめ、共有
- 指導内容だけでなく、その目的、参考文献も示すことで、教員の考え、アイデアも共有

成果

- 25コマという限られた時間でも体系的な授業実践が可能に
- 生徒からの評判も高く、今年度も継続

✓ SGH指定校縦断評価結果

取組概要

- SGHスタディ等での学びを定量的に評価するため、筑波大学グローバル・コンピテンシーを研究する研究者等と心理学を専門とする本校の管理職で、評価指標を共同研究
- 本校に申し出をした15校程度について、経年で評価を続ける縦断評価を実施

Check

取組内容の評価

- 本校アンケートでは、SGHスタディで、議論する力が年度を経るごとに身についたことが分かった。一方地球規模の視点などについては、年度を経るごとに低下している。
- なお、SGH指定校縦断評価での評価では、プログラム参加群は、①異文化への肯定的意識や、②国際社会における他者理解と協働のスコアが、非参加群と比較するとともに相対的に高く、②は時間を経ると向上していることが分かった

Action

指定期間終了後のいま

- 基本的に継続している。評判の良いSGHスタディの8つの指導計画についても、量的研究方法だけでなく、質的研究手法の基礎も学べるように改善を検討中
- 一方、予算がなくなったことで、海外研修を含むSGHプログラムの教員旅費については捻出が難しく、存続が危ぶまれている